

第2回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録

- 1 会議名 第2回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会
- 2 開催日時 平成26年11月14日(木) 午後1時30分～午後3時57分
- 3 開催場所 北杜市役所本庁舎西会議室
- 4 出席者(敬称略)
出席者
茅野 光一郎、小林 健展、小林 千鶴子、草野 香壽恵、氏原 宏幸、久保 秀博
小林 伸一、卯月 盛夫
欠席者
坂本 興一、清水 純子、高田 一彦、鈴木 正吉
事務局
神宮司 浩建設部長、坂本 孝典まちづくり推進課長、
景観まちづくり担当リーダー植松 宏夫、唐澤 史明、高橋 剛
東京芸術大学
北川原 温、山崎 日希、吉川 青、城代 晃成、星野 義晴
会議録署名委員
小林 千鶴子、草野 香壽恵
- 5 議題
 - ①開会
 - ②あいさつ
 - ③報告事項
 - ・小淵沢駅舎改築・駅前広場整備工事スケジュール
 - ④協議事項
 - ・小淵沢駅周辺地域活性化について
 - ・その他
 - ⑤閉会
- 6 公開・非公開の別
公開
- 7 傍聴人の数
1人
- 8 審議内容
 - ①小淵沢駅舎改築・駅前広場整備工事スケジュール
事務局より説明を行った。

②議事

- ・小淵沢駅周辺地域活性化について

「商店街の活性化について」（1班）

「周辺地域内での交流について」（2班）

それぞれの課題を2班に分かれ、ディスカッションを行い、内容を発表した。

(会長) これから、2グループで議論した内容を紹介していただきます。まず、商店街の活性化について発表をお願いします。発表を聞きながら、内容に補足が必要な場合は補足をしてください。発表後、質疑の時間とする形で行いますので、よろしくお願いします。

(1班) 発表させていただきます。まず、こちらのグループでは、商店街の活性化とは何なのかというところから話し合いました。

対象となる人が住民と観光客の2つあるかと思いますが、活性化を継続させていくためには、住民が対象にならなくてはならないという結論になりました。

商店街の活性化というところでは、エリアの見直しと住民のやる気の出し方というものの2つに分けられるのではないかと思います。

エリアの見直しとしては、どこまでが商店街なのかという意識をはっきりさせることで、人の動きをつくるためにも、商店街の奥や中に駅からの目的地というものを生み出すという意見が出されました。

住民のやる気の出し方としては、住民だけでなく、市や商工会やまちづくり団体からの後押しというものが、はっきり示されることが必要だと思います。やる気のある人が、率先して始めることで、周りの人達がそれに付いて行くという流れが生まれて欲しい。その意識を変えるためにも、勉強会というものを住民の人達が、自主的に開催するということが考えられるかだと思います。そういった具体案として、挙げられるものを発表させていただきます。

世の中が高齢化社会となっているので、電車利用というものは今後絶対に増えていきます。駅を降りたところで、日用品が買える場所が必要になってくるという話と、駅の中に出れる、多目的ギャラリーを積極的に利用していくことが出来ればという意見が出ました。

駅の近くにおいしいコーヒーが飲める場所やお酒が飲める場所が無いので、くつろぎの場をつくったらどうかという意見もありました。

イベントの開催として、ポイントカードやウォークラリーを開催する。料理教室などが、既に企画されているようなので、そういった事を積極的に開催していったらどうか。

駅の北側に空き地となっている場所があります。そこに駅舎が新しくなる

ことをきっかけとして、住民の人達が植栽を行う。ブルーベリーや柿など。管理の問題があるかと思いますが、自分達で愛着を持って管理を行ってもらおう。モニュメントを置いてみて、藝大の学生もそこに関わっていけないか。

小淵沢総合支所の近くに陶芸の体験コーナーというものがあるようなので、そういうところを積極的にアピール出来れば、先程の人が集まる目的地の一つになったりしないでしょうか。

これらのこと全てに、利益というものが必要になってくるので、どうやって利益を生み出すことが出来るのかが大切になってきます。

全ての課題として、管理を誰が行うのかということがあがってくるので、地域の人達が考えていただきたい。特に持続可能にするためには、ボランティアではいけません。

以上で発表を終わります。

(会長) 委員の方で補則をお願いします。

(委員) 補則になるかは、わかりませんが。

まちづくりという観点から、10年前からボランティアという形で一生懸命やって来たつもりです。しかし、ボランティアだけでは続かない。実際に我々に限らず、日本全国のボランティア組織というのは、悲鳴を上げています。その中で経済というのも、もちろん目を向けて、事業展開する上では、まちづくりにしても、事業主にしても、イベントにしても、計画内容に盛り込んで実施していかないと、そもそもやる気にならないだろうと思います。もう一方で、経済だけではなく、文化や芸術など、多様で高度な文化環境がありますから、そういったものを材料にして、老若男女や新旧住民が良い交流の場をつくるコミュニケーションが非常に重要なことで、これからの地域の課題だと思います。

(委員) 私は本当に具体的な提案をさせていただきました。例えば、10時頃から物作りのイベントを開いて、何を作るかという、今観光協会で行っている「馬と棒道ウォーキング」というイベントがあるのですが、その時に参加者へのお土産が少ないのではないかと、参加賞として何か出せないかと、女性団体連絡協議会の話し合いの中で意見が出てきました。物作りのイベントで集まって、何人かで作って、その後のランチタイムで、駅前のどこかへ行って食事をする。地元の方や外から来た方も意外と駅前の事を知らない方が多いので、地元のどこかで食事をして、その後ショッピングをしてみるとか。

手作り品はもちろん地元の製品を使います。手芸屋さんの毛糸を使った何かを作ってみようとか。手作りの風なんかも良いではないか。地元の物を使って、地元の商店に還元が出来る。食事も地元の様々なところで食べれば、お店も知ることが出来る。そのようなイベントを月一回とか開催し、どんど

ん広めていって、最終的にやる気を出してもらうために、自分達の商店街が活性化されることは、町全体が活性化するのだという考え方に変わっていただきたいと思います。自覚していただきたい。それから成果は、ぜひ自分の店で扱っている物を使ってもらえるというような発想と貢献です。観光協会が今回は外から400人程招いてウォーキングしましたが、毎年続けていこうと、馬術競技場も活性化させるためには、どうしていけば良いのかということ、様々な集まりで知恵を絞っています。ですから、馬のグッズを作ることが、前から課題に挙がっていて、今でも出来ていないことです。そういうことにも貢献出来るやりがいと、いくらかでも利益にもつながる。そして新しい方達ともコミュニケーションが図れる。福祉的な面でも考えながら、企画を話させていただいて、ここまで煮詰めていただきました。本当にありがとうございました。

(会長) 今の説明で何かありますか。

(委員) エリアというのは何か。駅前だけと、とらえて良いのか。小淵沢全体で考えることなのかなと思うのですが。例えば、小淵沢の道の駅がありますが、今関東で3番目に人気があるそうです。そこに集まっている人達を見ると、おしゃれな人達が多いと思います。おしゃれという事が必要であって、そうすれば、そこに人が集まるということがあります。エリアというのが本当に駅前だけで済むのか。道の駅も含めて、あそこにも店はありますから。そこらへんをどのようにとらえているのかという事をお聞きしたいと思いました。

(会長) 話し合いの中でそういう議論にはなりましたか。エリアをどういうふうにするか。広げようという意見とかは無かったのかな。

(1班) これまで商店街と言いますと、駅を出てからの1本の道に限定して、話をされていたことがあったのですが、駅が出来るまでは、一本南側のうなぎ屋さんがある通りが、メインの通りだったということでしたり、意見があったのは、商店街の中に特徴的なお店があることによって、その地域だけではなくて、電車に乗ってそこに買いに来てくれるという事が考えられるので、具体案でもあるのですが、この商店街に来れば、おいしいコーヒーが飲めるとか、無農薬の野菜が食べられるとか、そういうことを打ち出していくことによって、エリアを徐々に広めていく必要はあるのではないかという話がありました。エリアを広げる対象が、観光客ではなく、かつそこに住んでいる方、北杜市全体を対象として、住んでいる人がここに来て何かを買っていくとか、何かを食べに来るとか、そういうことが出来るようなエリアの考え方をしていた方が良いですねという話がありました。

(会長) よろしいですか。

(委員) 何か提案になるかもしれませんが、今猪とか、鹿とかの被害にずいぶ

ん困っているということがあります。それをジビエにしたらどうか。聞きましたら、猪はそれなりに使われているようです。鹿は捨てられているのがほとんどだということですが、この開発をして、B-1グランプリでトップを取れるような計画をすとか、それが完成したら、個人飲食店に出せるように盛り上げていくと。

(1 班) 今まで、害獣と呼ばれるような猪とか鹿を名物などに転換してしまおうということですね。甲府でしたら、とりもつ煮が有名ですが。ここに来てそれを食べるだけではなくて、地域の環境を皆さんにお伝え出来る提案をしていく。

(委 員) 農家が現実に困っているのです。全国的なものだけど。

(委 員) 猪と鹿ですが、今ジビエを清里のホテルグループを中心に開発しまして、まだ商益的な解体施設が出来ていないので、一部民間で解体をして販売をしています。そこでは北杜市内ですけども、鹿肉とか猪や熊の肉のギョウザを作っています。あとは、お隣長野県のすずらの里周辺の青柳では、鹿肉ジャーキーなどを作っていたりします。北杜市内でも潤うきっかけになればと思う。その中の1つで、私も関わってきて思う事は、罾の資格を取る若者が増えて来ているのですが、銃などを持つ、最後殺すまでの手段を持つ方達が少なくなってきています。そこをもう少し日の目に出せるような対策とか、品評会ですとか、入りやすい仕組みを作ってくれればありがたいと思います。

(会 長) 新しいビジネスみたいな感じがしますね。

では、よろしいですかね。また次回につなげるようにまとめますので、北川原先生最後に何かありますか。

(北 川 原) ちょっとネガティブになってしまうかもしれませんが。

アイデアはたくさんあるのです。地域のポテンシャルはものすごく高いです。2年前に調べた時も、自然環境それから食材は最高レベルです。それから芸術、文化についても美術館も30以上ありますし、アトリエや工房、陶芸ガラスから色々とあって、日本一だと思います。なのに、商店街が寂しいのは、危機感が無い。困っていない。このまま放っておけば、何年後かには本当に困ってしまうので、何とかしなければと商店街の人が実際に考えていかなければならない。久保さんもそうなのですが、色々と考えていらっしやあって、今後バーを開くと先程話がありました。若い人がいよいよやらなければなくて、ある個人ある個人が、自力でやっていく。それが段々とつながって、ネットワークが出来て、一つの大きな動きになっていくだろうと思うのですが、どうやってそれを支援していくのか。それは行政の力も必要ですが、あまりみんなで大騒ぎしても、本当にそこにいる人が何とかしなければと思うことが必要である。そのタイミングがすぐに来るのでしょうか、

駅舎が出来る頃には、タイミングが合って、深刻な状況から脱出していこうとする必要があるのではないかなという気がしました。

(会長) わかりました。共通の危機感というのは、いつもまちづくりの原点だと思っています。一人一人危機感はあるのかもしれないけど、共通になっていないんですね。

(北川原) そうですね。共有することで力になるのですが。

(会長) 共有化にはいくつかの手法があるのですが、これは次回の議題に取っておきましょう。

では、続いて周辺地域内での交流について、こちらのグループをお願いします。

(2班) こちらのグループでは、コミュニケーションと言うものをテーマにして、住民同士であったり、外から来る人と中に住んでいる人の交流について、コミュニケーションという事柄を絞って議論しました。

まず、文化活動ということが最初に挙がりました。小淵沢町の文化祭が53回目を迎えており、そこでは、幅広い参加層で子供から、小学生、中学生、高校生、地元短大の学生も参加しています。そこまで広い活動の幅があるにも関わらず、外からの参加者や見学者が少ないということがあったので、何か工夫が出来ないかという議論をしました。例えば、お茶をたててお客さんに応じて、自分達の活動の成果を披露出来るだけでなく、見学に来たお客さんをもてなすことが出来るということを行っているそうです。

高校生の参加ということで、地元の高校生が、現段階でもボランティアで駅舎の清掃を行っており、それだけにとどまらず、地元の子供との交流を行っているということで、その幅を広げて、新しい駅舎が完成したところで、駅舎の利活用の面でも高校生の参加というものも広がれば良いなと思いました。

また、高校生は県外から来ている生徒も多い。その生徒に対し、小淵沢町の良いPRが出来れば、生徒の家族に対しても小淵沢のPRにつながるのではという意見もありました。

続いて、生涯学習センターについて意見がありました。これは、センターが子供にとっての拠点になっているのに、規模や役割が縮小されて来ている。そこをどのようにすれば、立て直すことが出来るのか、仕組みを確保することが出来るのかという議論をしました。職員の確保という意見も挙げられたのですが、行政に頼りきるのではなくて、もっと自分達が主体になって、運営していくことが大事であり、文化活動についてもそれは言えるのではと思います。

先程の「商店街の活性化」についても出された意見ですが、町内にたくさ

んいる芸術家をもっと活かすべきだという意見が出されました。長坂町にある「おいでや」というギャラリーと芸術教室が開けるような施設があるそうです。その「おいでや」がどういった仕組みで利益を得ているのかという議論もあったのですが、今の段階では、特定の芸術家しか、周知されるような活動を開けなかったり、開けなかったりしているので、たくさんいる芸術家がどんどん入って活動出来るような事を小淵沢でも出来ないかということも議論しました。

大きなテーマだったのが、子供の交流ということです。子供が主体となったイベントを開催することで、親同士の交流が生まれる。子供をきっかけに交流が生まれることがあるという意見が出されました。例えば、自然を活かしたイベントやバーベキューやキャンプなど、すでに実施しているところはあるかもしれませんが、小淵沢の場合は八ヶ岳を含む山々に囲まれた地域なので、登山を交流の場に出来ないかというような意見も出されました。

全体をまとめますと、子供が主体になるともっと元気なまちづくりが出来るのではないかという事で、これは卯月先生からの提案なのですが、高知県で子供基金というものを提案されたそうです。基金を募るにも、大人の基金に比べれば募りやすく、何かやるにしても、先立つものが無ければ何も出来ない。基金からお金を出してイベントが実施出来る。

また、地域に拠点が無いということで、拠点を造ることが大事であるという意見が出ました。今、空き家が多く存在しているため、空き家の活用を考えて、生涯学習センターのような子供の拠点になるような場所、居場所になるような場所を箱ものではなくて、仕組みとして準備するということがあったり、小淵沢町には旧平田家という施設があるので利用したらどうか。また、フィオーレの活用について意見が挙がりました。

最後に地域資産についてですが、こちらについては、何かをつくるという事では無くて、仕組みをつくるという話になりました。特別にお金をかけなくても、元々小淵沢が持っているものが素晴らしいので、それをどんどん活かしていこうと。そしてそれを活かしていく仕組みについて話し合いを行いました。以上です。

(会長) はい、ありがとうございました。

補則とかございますか。質問でもかまいません。

(委員) 小淵沢に限らないと思います。発表の内容はごもっともな話だと思いますけど、北杜市全体としては、新しい住民の方と今まで根付いてきている方との交流の場というものをなかなか確立出来ていない。文化的な価値観であっても、生活の価値観というものが、そもそも違う方達が、一つの地域で一緒に協力して暮らしていこうということが大前提な訳ですから、そこでは話し

合いの場でしたり、交流を深めるということが、欠かすことが出来ない小淵沢の課題だと思います。それを提案したいです。

(会長) 他にありますか。

(委員) まだ十分ではありませんが、これは良い効果が上がっており、新しく入って来た人達も活躍して、交流になると思う事があります。大東豊地区で実施している「こびっとカフェ」があります。これは大事ですね。今高齢化がどんどん進んでいて、そんな時にそういう所へ出て行って刺激を得ないと、小淵沢の高齢者は認知症の人達がたくさん出てきます。私共が連れ出して、元気になるって欲しいなと思います。そういう意味では、新しく来た方達との交流にも良い作用になっている訳です。

(委員) 一番初めにテーマに挙げていただいたことですが、文化活動について、ギャラリーを含めて、活動が出来たり、展示が出来る場所というのが、いくつもあります。それを展開していただいたり、やはり中核となるスペースとかをうまく創作出来れば良いかなと思います。

小、中、高校生、短大生が参加していますが、地元の住人ではない学生、特に高校生や短大生ですが、北杜市外から学びに来ている学生がより参加出来るワークスペースとか、例えば生涯学習センターのように駅周辺でなくても、勉強しやすいとか、夜遅くまで学生が集まっていられるような環境というものが出来れば良いのかなと思います。

(会長) とっても重要だと思います。実際にやっているところがありますよね。

(委員) もう一つだけよろしいでしょうか。

地域の人口の減少と言うのが大きな課題になっていますが、我々小淵沢町にとっても、同じ大きな課題となっています。その中で、若者というのは、将来に対して可能性をものすごく持っています。また、高齢者と言われる我々の大先輩の方達は経験を持たれている。こういった融合と言いますか、話し合いを行って、ミックスして、地域を盛り上げて、多くの若い人にも地域に住んでいただいたり、後継者となっていただきたいということを強く思います。

(委員) 関連していますので、少し申し上げたいのですが、今の人口減少の話について、小淵沢町はものすごく関係しています。

北杜市全体が人口減により消滅する可能性がある団体に入っています。そうならないように頑張らなければいけない訳ですけども、心配をしております。

こういう構想のようなものは、私共のような年齢の高い者が、今から夢のような事をやるよりも、頭の柔らかい人達の意見も無ければならないということで、私は今の文化協会の会長に来年の文化祭には、小淵沢町の夢を題し

て、作品を出してもらいましょうと伝えてあります。やはり、私共よりも子供達が今から、小淵沢町に長く住む訳ですから、それも一緒にカバーしていきたいと思います。

(会 長) 参加した事務局の方はどうですか。

(事務局) 補則では、無いですけど、せっかく地元にも有名で大きな私立の学校がありますし、若い学生がいる訳ですので、若い力やアイデアを取り込んで地域の活性化につなげられたら良いのではないかと意見を出させていただきました。あと、交流の場という所で、なかなか大人の交流という部分でいくと、行政区であったり、しがらみであったりと、どうしても難しく考えがちになると思います。そこで、子供が主体である交流ということが良いのではないのでしょうか。子供ってすぐに仲良くなるじゃないですか。そういった事をきっかけに父兄の交流の輪が広がっていくのではないかと思います。いずれ活性化につながっていければ良いなと意見を出させていただきました。

(事務局) 今回小淵沢地区という限定の中で、活性化計画を行っている訳ですが、今日みなさんの様々な意見をお聞きしまして、小淵沢の地域だけではなく、北杜市全体でこのような取組みというもの考える必要があると思いました。改めてもう一度自分達の地域が発展出来るかということを見直して、他の地域も意識していくことが大事ではないかと感じました。

(会 長) それでは、そろそろ予定した時間になりましたので、終わりにしたいと思います。個別の事については言わないことにして、今日は会議の冒頭に申し上げたとおり、ぜひ委員としての思いのたけをとにかく聞きたい。こんな町にしたいという思いをお聞きしました。出来るのか出来ないのかは別として、こうしたいという希望や要望、理想が出されたかと思います。私が想像した以上にたくさんのアイデアが出て来て、今日の会議はとても実りが多かったと思っています。

ただ、これで終わりではもちろんありません。たくさん意見が出たことは良いのだけど、全部を実現することは当然出来ないし、やっぱり世の中には優先順位というものがあります。実践するにはお金もかかるし、マンパワーも必要になってきます。今日出た意見は、私もお手伝いしますが、藝大や事務局で少し整理をして、来年以降に何か出来ることがあるかなと、私は思っこの会議に臨んでいますので、何か手がかりをつかんで、最初の一歩ぐらい踏み出すのが委員会だと思っていますので、年度内には、必ず優先順位あるいは事業性というのを議論して、次年度に向けて踏み出したいと思っています。どういうふうに整理出来るか楽しみですけども、よろしく願いいたします。

多分次回は、来年になってしまいますかね。12月は厳しいですかね。そ

れで年度内にうまく統合していきたいと思います。

本日は、ご苦勞様でした。

(副会長) 私達は、限られた地域で生活をしておりまして、まったくアイデアも底をついています。こうした時に、藝大のみなさんや早稲田の先生の協力で、はっとする助言をいただいて、本当にこの町のために、地域のために一生懸命知恵を出し合おうではありませんか。そんなふうに感じています。

・その他

次回開催予定時期について

振込先口座届について

④閉会

会議終了 午後3時57分